

本校のポプラ並木について

本校のポプラ並木は、およそ半世紀以上にわたり、本校生の心の友として愛され、また本校のシンボルとしてその偉容を誇ってまいりました。学校といたしましては、この間、毎年、剪定や養生に多額の予算を投じて、維持管理に努めてまいりました。

しかし、昨年8月に1本が立ち枯れて倒木寸前のため、伐採せざるを得ない状況となり、さらに、昨年10月には台風による強風を受けて正門側の1本と中ほどの1本の計2本が倒れてしまうという思わぬ事態が生じ、樹勢の衰えが大変懸念される状況となりました。そのため、学校といたしましては、急遽、すべてのポプラについて樹木診断を受けることとし、本校第59回生である樹木医の小山千秋先生の御診断をいただくことといたしました。

その後11月末に、小山先生に念入りに診断していただいた結果、全体として想像以上に樹勢の衰えが著しく、現在ある21本のうち、13本は根元幹の腐朽が激しくほとんど空洞化しているような状態で、倒木の危険大であり、すぐにも伐採の必要があること、5本は5年以内に空洞化の危険があり、現在の腐朽を完全に摘出することは非常に困難で伐採の必要が生じること、腐朽が見られない木はわずかに3本のみで、それも数年から十数年で腐朽・空洞化の可能性が大きいこと等の御指摘をいただきました。

この思わぬ結果に私どもといたしましては深甚なショックを受けましたが、学校といたしましては、本校におけるポプラの存在意義を踏まえ保存の方向で小山先生の御判断を仰ぎましたが、延命措置を施しても倒木の危険を回避できないということ、またポプラ並木が生徒が頻繁に行き来する通路に近いこと、倒木により校舎に被害が直接及ぶこと等から、誠に残念には存じますが、生徒の安全確保を第一に、伐採止むなしという結論に達しました。

なお、伐採後の植樹につきましては、今後、関係者の御意見を賜りながら検討を行っていく予定でございます。また、伐採されたポプラについては記念として残るような形で利用を検討しております。

本校のみならず加須市をはじめとする近隣地域の方々にもシンボルとして愛されてまいりましたポプラを伐採することは、誠に忍びなく、正に断腸の思いを禁じえませんが、何卒、事情を御斟酌のうえ、御理解くださるようお願い申し上げます。

埼玉県立不動岡高等学校長

